







































































































































大宜味村指定文化財 第2号  
「熾星ツファンチャのハスノハギリ」

原産国：熱帯アジア  
科名：ハスノハギリ科 (Hernandiaceae)  
和名：ハスノハギリ  
方言：トウカナチ(本島)、トカナツ(八重山)  
学名：Hernandia nymphocotyla Kubitzki

【歴史背景】

昭和28年に大宜味村火葬場ができる以前は、私  
は大宜味村の先祖の墓場の風習は「埋葬式」であっ  
たため、熾星区内のハスノハギリの周辺は、墓地の  
場として区民に利用されていたそうです。埋葬方法  
は、亡くなった人を棺に入れ、満2年ウファンチャ墓  
の中に設置し、その後、ハスノハギリの樹の下の腐  
葉(紙の腐)に再び収めてハスノハギリの前にある  
ウファンチャ墓に納骨していたそうです。また当時は  
幼少期や大病で亡くなった人の骨は、ウファンチャ墓  
への納骨が許されておらず、ハスノハギリの樹の下  
に埋葬していました。「お墓に入れてあげることが  
できないけど、この樹の陰で我慢してね」という当  
時の人々の死者への想いが込められていたそうで  
す。当時からこの風習を知る土地の人々は、ウヤフ  
アーフジ(ご先祖)や魔物がでるのではないかとい  
うことで、現在でも当時の風習を知る人たちは、こ  
のハスノハギリ付近には近づかないようにしてい  
るそうです。

【特徴】

ハスノハギリは熱帯の海岸林に多く、電線の高  
水で約20メートルに達します。熱帯アジア、東部  
アフリカ、マダガスカル島、ポリネシアなどに分布  
し、日本では小笠原諸島や琉球列島の沖永良部島以  
南に産し、特に八重山諸島に多くみられます。この  
植物の分布領域からすると北限に達しています。  
ハスノハギリの果実は海水に浮いて漂うので、  
熱帯各地の海岸では高木のハスノハギリがよく見  
られます。  
材は、ホリに似て軽く柔らかで、加工しやすいこ  
とからカヌー、舟、下駄、安い合板や室内用材に利  
用されたりします。ほかにも以前、ハスノハギリは、  
心材部の煎じ汁を血止めにしたり、種子をつき砕い  
て切り傷や腫部の湿性に塗ったりしていたそうで  
す。また、ハスノハギリの果実は無用になりません  
が、沖縄では、果実の上方の穴を吹くとプーブー音  
がするので子どもたちのおもちやとなったそうで  
す。また沖縄地方ではプーブーギ、トウカナチ、ト  
カナツなどの方言で呼ばれています。



















